

Hello, from
Around the World

ALT通信

白河で活躍するALT（外国語指導助手）を紹介！



ブルック・マクダニエル先生
（アメリカミネソタ州）

本庁舎学校教育課 内2363

第二の故郷

こんにちは。マクダニエルです！マクドナルドじゃないですよ。アメリカのミネソタ州出身です。私の故郷ミネソタは、1万の湖がある州といわれている自然豊かなところですよ。

白河に来て今年で4年目になりますが、小峰城の美しい桜、南湖公園、紅葉、提灯祭りなど、魅力がたくさんあって、今では、私の大好きな場所の一つになりました。

人もみんな親切で、コンビニの店員さんも優しいですね（笑）

また、和食だけではなく、イタリアンなど大好きな世界各国のレストランもたくさんあります。

趣味は絵を描くことと、アーチ

エリーです。小・中学校で英語を教えています。

白河は私の第二の故郷。皆さん、これからもよろしく願います！（次回に続く）



▲翠楽苑（南湖公園）

英語で一言！

「Try, try again!」（失敗を恐れず）何度でも挑戦しよう！

シリーズで学ぶ 白河歴史人物伝

Vol. 7

定信に仕えた白河藩の絵師

巨野泉祐

（1774～1837）



巨野泉祐（大野文泉）像
谷文晁が描いた泉祐の肖像画（広島県立歴史博物館蔵、国指定重要文化財：菅茶山関係資料）

巨野泉祐は、白河藩士の大野家に生まれました。本名は安勝といひます。26歳で藩の御絵師に命じられます。絵師としては、はじめ大野文泉と名乗りましたが、文化8年（1811）以降は巨野泉祐と名乗りました。

《絵師としての活動》

泉祐は、藩主定信の命により、さまざまな編纂事業に携わりました。寛政11年（1799）には、全国の古画を模写し分類・編纂した『古画類聚』を清書し提出しています。同じく全国に伝わる古宝物の図録である『集古十種』の編纂にも携わりました。また用務で各地を旅した

際には、定信の求めに応じて道中の風景を描いた真景図を提出しました。例えば文化5年（1808）、定信の息子定栄（のちの長野松代藩主真田幸貫）の甲子温泉湯治に同行しており、道中の景色を描いた「奥州白川甲子山真景図」が現存しています。その他、白河領内各地の真景図や、小峰城内にしつらえる屏風や杉戸絵など、藩から勤しんでいます。

《晩年の泉祐》

文政6年（1823）、藩主松平家が桑名藩（三重県桑名市）へ国替えとなったため、泉祐も桑名に移り、天保8年（1837）に64歳で没しました。藩儒学者の広瀬蒙斎を描いた肖像は58歳の作品ですが、穏健な蒙斎の人物がよく表れています。



広瀬蒙斎像

広瀬蒙斎は、『集古十種』や『白河風土記』の編纂などに携わり、学問の面から藩主定信を助けました。（白河市歴史民俗資料館蔵）

文化財課 272310